

令和元年度 **国** **語** (50分)

## 注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけない。
- 2 この問題冊子は32ページである。  
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
- 3 試験開始の合図前に、監督者の指示に従って、解答用紙の該当欄に以下の内容をそれぞれ正しく記入し、マークすること。
  - ・①氏名欄  
氏名を記入すること。
  - ・②受験番号、③生年月日、④受験地欄  
受験番号、生年月日を記入し、さらにマーク欄に受験番号(数字)、生年月日(年号・数字)、受験地をマークすること。
- 4 受験番号、生年月日、受験地が正しくマークされていない場合は、採点できないことがある。
- 5 解答は、解答用紙の解答欄にマークすること。例えば、

10
----

と表示のある解答番号に対して②と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の②にマークすること。

(例)

解答 番号	解 答 欄				
10	①	②	③	④	⑤

- 6 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
- 7 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってよい。

国語

解答番号

1

24

1

次の問1～問6に答えよ。

問1 傍線部の漢字の正しい読みを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 1。

様々な時代の土砂が堆積している。

- ① すいせき
- ② ちゅうせき
- ③ たいせき
- ④ じゅんせき
- ⑤ しんせき

問2 (ア)、(イ)の傍線部に当たる漢字と同じ漢字を用いるものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つ選べ。解答番号は 2・3。

(ア) タンテキに物事を説明する。

2

- ① 座席のハシに座る。
- ② 心身をキタえる。
- ③ アワイ望みをかける。
- ④ 重責をニナう。
- ⑤ 木が燃えてスミになる。

(イ) 少々の誤差はキヨヨウする。

3

- ① 障害物をジヨキヨした。
- ② トッキヨを申請する。
- ③ 賛成にキヨシユを求める。
- ④ 料理界のキヨシヨウ。
- ⑤ 申し出をキヨゼツする。

問3 空欄に入る語として最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 4。

文化祭の発表の中では、最優秀賞を取った彼のステージパフォーマンスが、 だった。

- ① 知音
- ② 蛇足
- ③ 矛盾
- ④ 圧巻
- ⑤ 助長

問 4 「献血」と同じ構成で成り立っている熟語を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

5

- ① 入試
- ② 夫婦
- ③ 宝石
- ④ 国立
- ⑤ 読書

問 5 傍線部 A～E について、敬語の使い方が適当でないものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

6

店員 「いらつしゃいませ。こちらにお名前をお書きしてください。番号順にお呼びしますので、お待ちください。」<sup>C</sup>  
 (客が席に着いたあと)  
 店員 「御注文は何になさいますか。」<sup>D</sup>  
 客 「コーヒーをお願いします。」  
 店員 「ホットとアイスのどちらを召し上がりますか。」<sup>E</sup>

- ① A
- ② B
- ③ C
- ④ D
- ⑤ E

問6

次の文章から読みとれることとして最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 7。

菌糸の細胞は、植物の細胞とまったく異なっている。植物細胞が細胞壁と細胞膜につつまれているのに比べて、菌糸細胞は一枚の細胞膜だけで外部と接している。その膜の成分も植物のようにセルロースを主にしたものでなく、キチンが主成分である。キチンは窒素を含んでおり、カニやエビの甲羅に多い成分で、分解されにくい。

(小川眞『キノコの教え』による。)

岩波書店

- ① 菌糸細胞はカニやエビの甲羅に多く含まれていて、分解されにくい。
- ② 菌糸細胞はセルロースを主成分とした細胞壁と細胞膜につつまれている。
- ③ 菌糸細胞の細胞膜は植物と同様にセルロースではなくキチンを主成分としている。
- ④ 菌糸細胞の細胞壁はキチンを主成分とした一枚の細胞膜だけで外部と接している。
- ⑤ 菌糸細胞は窒素を含んでいるキチンを主成分とした細胞膜につつまれている。

## 2

東高校の一年生は、毎年夏期休業中に、クラスごとにボランティア活動をするようになっていく。一組では、クラス全員で行うボランティア活動の内容について、クラスでどの活動をしたかを話し合ってから決めた。その後、根本さんは一組のクラス代表として他のクラス代表と話し合い、他のクラスと活動内容が重複しないように調整することになった。以下の【代表同士の話し合い】【活動内容一覧】【メモ】を読んで、問1～問3に答えよ。

## 【代表同士の話し合い】

一組(根本) 「まず、【活動内容一覧】を見てみよう。みんなこれから活動内容を選んだと思うんだけど、どうなった？ 重複しないように調整しているか。」

二組(池田) 「私たちのクラスは、ほとんどの人が老人ホームへの慰問を希望してるよ。六月の文化祭で学年一位だった合唱を披露したいなと思って。今なら歌詞もまだ覚えてるし、少し練習し直せば十分だと思う。第二希望は、保育園の卒園生だから、お手伝いをしたいと言っている女子が数名いたかな。夕方から始まるみたいだし、昼間よりは涼しくていいと思う。三組はどんな希望が出たの？」

三組(稲葉) 「僕たちのクラスは、ラジオ体操のお手伝いが第一希望なんだ。でも、早朝からの活動だから、起きられるか自信がないと言う人もいて、第二希望の保育園のお手伝いにしたほうがいいかもしれないも思っている。」

一組(根本) 「それは稲葉さん個人の意見？ それとも、三組全体の意見？ 僕たちのクラスは、駅から学校までのゴミ拾いを第一希望にしてるんだ。自転車通学や徒歩通学をしている人の割合が多いから、自分たちが普段使っている道をきれいにしたいと思って。他のクラスと希望が重複していないみたいでよかった。第二希望は、集合しやすいから駅前での募金活動になってるよ。」

四組(山崎) 「私たちのクラスも、募金活動という意見が最初に出ていたの。募金活動は、小学校や中学校で経験したことがある人がいるから慣れているんですけど。でも、大きな声を出して募金を呼びかけるのが恥ずかしいという意見もあったから、二番目に希望することにして、老人ホームへの慰問を優先することにしたの。」

五組(足立) 「つまり、四組は第一希望を老人ホームに、第二希望を募金活動にしたってことだね？ 僕たちは、稲葉さんと同じく第一希望がラジオ体操だよ。活動してから部活動へ行けるのが、希望した主な理由かな。でも、第二希望は意見がばらばらになってしまって、はっきり決まらなかったんだ。僕は個人的にはゴミ拾いをしたいけどね。」

一組(根本) 「ここまで話し合いで、希望が重複してしまっているところがあるから、調整していかないと。決める時には、やっぱりその活動を選んだ理由も大切だと思う。楽しそう、だけではなくて、活動を選んだ理由は、この後調整していく上で大切なポイントだと思うんだ。」

四組(山崎) 「私は根本さんに賛成。例えば、じゃんけんやあみだくじで決めましたと言っても、クラスの皆は納得しにくいだろうし、クラスで話し合って決定したんだから、活動を選んだ理由は大切だよね。」

二組(池田) 「これまでの各クラスの要望を簡単にまとめてみたのだけれど、これで合っているかみんな確認してみてください。抜けているところがあるかもしれないから、自分のクラスの箇所を確認してね。」

五組(足立) 「僕もとりあえず参考になればいいなと思って、第一希望だけメモを取ってみた。池田さんのとあわせて見てくれないかな。もし間違いがあつたら今のうちに直すよ。」

三組(稲葉) 「うん、三組はこれでいいと思う。二つとも、各クラスの要望がうまくまとまっているね。第一希望で出ていないのが保育園のお手伝いか。意外だな。このボランティアは他のクラスと希望が重なりそうだから、うちのクラスでは希望する人も多かったんだけど、第二希望に回したんだ。」

一組(根本) 「それなら、三組は改めてクラスで保育園のお手伝いはどうか聞いてみてくれるかな。もし、三組が保育園でもいいなら、五組も第一希望が通って助かるよね。」

五組(足立) 「そうしてくれたら、すごく助かるなあ。もちろんうちのクラスにも、他のクラスと希望が重複してしまったことは、この後報告しておくよ。」

三組(稲葉) 「前回のクラスの話合いでは、保育園とラジオ体操は、同じくらい的人数が希望していたから、今の他のクラスの状況を伝えれば、僕たちの第一希望も変わるかもしれない。もう一度、クラスの皆の意見を確認してくるよ。他には、二組と四組も希望が重複しているよね。ここはどう調整しようか。」

二組(池田) 「私たちのクラスは、大多数が老人ホームへの慰問だったの。やりたいことも決まっています、改めて考え直すのは難しいかもしれない。第二希望も他のクラスと同じだし……。」

四組(山崎) 「四組と二組は第一希望も第二希望も他のクラスと重複していることがメモからも明らかだものね。けれど、理由を考えたら、今のところ、私たち四組よりも、二組が老人ホームへ慰問をしに行ったほうがいいかな、という気がする。」

一組(根本) 「この場で決定することはできないから、みんな改めてクラスへ報告しよう。ただ、早めに活動場所を決定してほしいと先生から連絡を受けているので、あさつての放課後にまた話し合おう。」

【活動内容一覧】

今年の活動内容について  
 ※この中からそれぞれ選ぶこと。  
 ※重複しないように話し合うこと。

- 駅から学校までのゴミ拾い
- 老人ホームへの慰問
- 保育園の夏祭りのお手伝い
- 小学生のラジオ体操のお手伝い
- 駅前での募金活動

【池田さんのメモ】

活動内容	第一希望	第二希望
ゴミ拾い	一組	
老人ホーム	二組・四組	
保育園		二組・三組
ラジオ体操	三組・五組	
募金		四組・一組

そこでやりたい理由も大切！

【足立さんのメモ】

第一希望

一組：ゴミ拾い(徒歩・自転車通学が多いから)  
 二組：老人ホーム(合唱を披露したいから)  
 三組：ラジオ体操(保育園に変更も可)  
 四組：老人ホーム(募金の声出しは嫌だから)  
 五組：ラジオ体操(部活前でも活動可能だから)

今後 二、四組と三、五組の調整が必要？



問1 【池田さんのメモ】と【足立さんのメモ】の特色について説明したものととして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

8。

- ① 【足立さんのメモ】は、今後の調整すべきクラスを明らかにしている。そのため、このメモを使って話し合うことで、全てのクラスが希望通りのボランテアに従事することができる。
- ② 【池田さんのメモ】は、一覧表にまとめることにより、各クラスの希望が分かりやすく提示されている。そのため、この情報のみで話し合っていくことが十分に可能である。
- ③ 【池田さんのメモ】は、活動内容で希望をまとめている。そのため、保育園の希望がないことがすぐに分かり、二組か三組が保育園に希望を変更すれば調整が完了することを明らかにしている。
- ④ 【足立さんのメモ】は、第一希望が書き込んであり、調整の方向性もまとめてある。ただし、第二希望が書いていないため、活動内容の調整をするには情報量が不足している。
- ⑤ 【池田さんのメモ】は、各クラスの希望を全て書いている。ただし、表という形式を取っており、どのクラスが重複しているかを把握する上では分かりにくく不適切な表現であるため、書き直す必要がある。

問2 傍線部 今のところは、……気がする とあるが、山崎さんがこのように発言した理由としてどのようなことが考えられるか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 9。

- ① 四組は募金活動を第一希望にしていたが、他のクラスと重複してしまうことを懸念した結果、老人ホームへの慰問を第一希望にすることにしたから。
- ② 二組が老人ホームへの慰問でやりたいことまで決まっているのに対し、四組は消極的な理由によって老人ホームへの慰問を第一希望にしたから。
- ③ 二組が老人ホームでの慰問で披露したいと思っている合唱は、文化祭で学年一位を取った実績もあり、すでに慰問へ向けて練習も開始しているから。
- ④ 一組は活動内容がすでに通学路のゴミ拾いに決定していたため、四組は、第二希望の募金活動なら確実に他クラスと重複せずに決定できるから。
- ⑤ 二組は第一希望が四組と重複しており、第二希望も他のクラスと重複しているため、これから新たに検討し直すには時間が不足しているから。

問3 【代表同士の話し合い】における、それぞれの発言について説明したものととして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 10。

- ① 稲葉さんは、話し合いが順調に進むことを最優先にして、今回で結論を出しそれを各クラスに報告するよう提案している。
- ② 根本さんは、発言の際にはクラスの意見なのか個人の意見なのかを明確にすることが必要であると、出席者に説明している。
- ③ 池田さんは、意見を述べる際、相手が理解できるようにボランティア活動を希望した理由を明確に述べている。
- ④ 山崎さんは、クラスが希望するボランティア活動の結論を先に述べ、その後で意見のまとまる経緯を時系列に並べて説明している。
- ⑤ 足立さんは、話し合いの流れをまとめて次にどのような視点で話を進めれば重複を解消できるかを述べ、話し合いの方向性を示している。

3

南高校では、国語総合の「テーマを設定して、調査した結果を発表しよう」という単元で、次の【資料Ⅰ】をもとに班ごとにどのようなテーマにするかを話し合った。なお、この【資料Ⅰ】は、小学四～六年生に、一日(平日)の生活の中で「大切な時間」、「無駄な時間」とはどんな時間なのかを尋ねたものである。

【資料Ⅰ】

Q あなたにとって「大切な時間」と「無駄な時間」は？

「大切な時間」トップ5

2016年		2001年		1981年	
①睡眠	51.8	①睡眠	60.7	①睡眠	66.6
②食事	48.8	②食事	41.4	②家で勉強・読書する	43.2
③家族と一緒にいる	41.0	③家族と一緒にいる	41.4	③食事	41.6
④学校の友達との付き合い	39.5	④学校の友達との付き合い	32.8	④スポーツ	38.8
⑤ゲーム	25.0	⑤家で勉強・読書する	25.2	⑤家族と一緒にいる	31.9

(%)

「無駄な時間」トップ5

2016年		2001年		1981年	
①EメールやSNS	47.0	①ゲーム	45.5	①音楽を聴く	58.0
②ゲーム	37.3	②電話(携帯含む)	44.5	②テレビを見る	53.3
③電話(携帯含む)	34.8	③EメールやSNS	32.4	③学習塾で勉強する	38.8
④通学	33.5	④通学	26.6	④通学	33.4
⑤お風呂	19.3	⑤テレビを見る	24.1	⑤学校以外の友達との付き合い	23.3

(%)

(シチズン意識調査 子どもの時間感覚 35年の推移 2016年6月10日による)

(シチズン時計株式会社)

次にあげるのは、一班と二班の話し合いの一部である。なお、この話し合いは、各班のテーマに関連する資料を協力して探しだせるようにするため、パソコン室で行われている。これらを読んで、問1、問2に答えよ。

【一班の話し合いの一部】

飯田さん 「【資料Ⅰ】の二〇一六年を見ると、ゲームが『大切な時間』の五位にあるけれど、『無駄な時間』でも二位になってるね。」  
 本川さん 「本当だ。不思議だね。」  
 飯田さん 「ねえねえ、私たちの班の発表テーマは、ゲームにしない？ どうかかな？」  
 本川さん 「(につこりと笑顔で)『それいいね。楽しそう。』」  
 関口さん 「(怪訝<sup>けげん</sup>そうな顔で)『……ゲーム？』」  
 飯田さん 「そう。ゲームだよ。【資料Ⅰ】の二〇一六年では、ゲームが『大切な時間』と『無駄な時間』の両方に入ってるでしょ？ だから、『子どもたちにとってゲームがどんなものなのか』というテーマで発表したら、おもしろいんじゃないかな？」  
 関口さん 「あ、そういうことね。いいよ。おもしろそう。」  
 飯田さん 「じゃあ、決まりね。今からインターネットを使って、子どもにとって、ゲームがどんなものなのかを調べてみようよ。」

三人はそれぞれインターネットで、子どもとゲームに関する資料を探した。本川さんが以下に示した【資料Ⅱ】を見つけた。

【資料Ⅱ】

Q もし1日のうちで1時間自由に使える時間があったなら、その1時間を何に使いますか？

トップ3

①ゲームをする	135人
②友だちと遊ぶ	92人
③読書をする	33人

(シチズン意識調査 子どもの時間感覚 35年の推移 2016年6月10日による) (シチズン時計株式会社)

本川さん 「飯田さん、関口さん。【資料Ⅰ】と同じ調査の中に、『もし一日のうちで一時間自由に使える時間があつたなら、その一時間を何に使いますか?』という質問項目があつたよ。」

飯田さん 「本当だ。ゲームが一位になってるね。本川さんが見つけてくれたこの【資料Ⅱ】を使えば、もっとゲームをしたいというのが子どもの本音だって言えそうだよ。私たちの班の発表のテーマは『子どもたちにとってゲームがどんなものなのか』にして、発表内容は、本川さんが見つけてくれたこの【資料Ⅱ】を使って、子どもは本音ではもっとゲームをしたがってるってことにしない?」

関口さん・本川さん 「いいよ。早く発表内容が決まってよかったね。」

飯田さん 「そうだね。」

【二班の話し合いの一部】

石川さん 「……【資料Ⅰ】から読みとれることを各自で言ってみる?」

土田さん 「……じゃあ、私から言うね。【資料Ⅰ】からは、睡眠や食事は三十五年間でずっと『大切な時間』の上位にあるよね。これはきつと、生きるために必要なことだからじゃないかな?」

大沼さん 「そうだね。『大切な時間』の上位には家族との時間もずっと入っているし、学校の友達との時間も、二〇〇一年からは上位五位に入っているけど、これも、同じ理由じゃないかな? 生きていくために大事にしたいことだよ。」

石川さん 「『大切な時間』の上位五位の項目は三十五年間であまり変わっていないのに、『無駄な時間』の上位五位の項目は、年代によって違っているのが不思議だな。しかも、二〇一六年では、ゲームが『大切な時間』と『無駄な時間』の両方に入っている。」

土田さん 「どういうことなんだろうね……。子どもを取り巻く社会や生活が、この三十五年間でどのように変化してきたのかを調べてみれば、何か分かることがあるんじゃないかな？」

大沼さん 「そうだね。じゃあ、インターネットでそれぞれ調べてみようよ。」

三人はそれぞれインターネットで、子どもを取り巻く社会や生活に関する資料を探した。石川さんが以下に示した【資料Ⅲ・Ⅳ】を見つけた。

石川さん 「ちよっとこれを見て。小学生と中学生に、遊び場所や遊ぶ相手を聞いている調査があったよ。」

土田さん 「どれどれ。……現代では、自宅で、しかも一人で遊ぶのが一位なんだね。……これを見て思いついたんだけど、もしかしたら、【資料Ⅰ】の『無駄な時間』の上位にあった項目の多くは、実は、それぞれの年代においては、子どもにとっての『遊び』なんじゃないかな？」

大沼さん 「あ、そうか。私たちは『無駄な時間』の上位の項目は年代によって違うと思っていたけど、その多くが子どもにとっての『遊び』だと仮定すると、表の見え方は全然変わるね。」

石川さん 「そうだよ。ねえ、私たちの班の発表テーマは、『子どもの遊びの変化』にしてみない？」

土田さん 「いいよ。発表に使う資料はこれから探す必要があるけど、おもしろいテーマだと思う。私は賛成。」

大沼さん 「私も賛成。じゃあみんなで、子どもの遊びがどのように変わってきているのかが分かる資料を、手分けして探してみよう。」

**子どもの遊び場所 TOP5**

1位	自宅	92.1%
2位	公園	49.3%
3位	友達の家	48.0%
4位	ショッピングモール	21.6%
5位	学校の屋外(運動場など)	21.3%

【資料Ⅳ】

**遊ぶ相手(全体) TOP5**

1位	一人で	74.3%
2位	学校の友達(同学年)	70.5%
3位	親	52.2%
4位	兄弟姉妹	37.7%
5位	近所の友達	14.8%

【資料Ⅲ】

(「小中学生の“遊び”に関する意識調査」 バンダイ子どもアンケート VOL. 243 2018年4月24日による) (株式会社バンダイ)

問1 傍線部【資料I】の二〇一六年では……おもしろいんじゃないかな？

とあるが、この飯田さんの発言について説明したものととして最も適当な

ものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

11。

- ① 関口さんの怪訝そうな表情を見て、自分が提案したことが関口さんにはよく飲み込めていないようだと言った飯田さんが、関口さんに向けて、先ほどの発言内容を理由を含めて詳しく説明した。
- ② につこりと笑顔になった本川さんの表情を見て、自分が提案したことに対して本川さんが賛成してくれたようだと言った飯田さんが、本川さんに向けて、発表に向けた役割分担を細かく説明した。
- ③ 関口さんの怪訝そうな表情を見て、自分が提案したことを関口さんが誤解して受け止めたようだと言った飯田さんが、関口さんのために、先ほどの発言で使った難しい語彙を平易な表現にして言い直した。
- ④ につこりと笑顔になった本川さんの表情を見て、自分が提案したことに対して本川さんが興味を示してくれたようだと言った飯田さんが、本川さんに向けて、このテーマで発表を行う必要性を説明した。
- ⑤ 関口さんの怪訝そうな表情を見て、自分が提案したことが関口さんには聞こえなかったのかもしれないと判断した飯田さんが、関口さんのために、先ほどの発言内容をそのまま繰り返し直した。

問2 一班と二班における話し合いについての説明として、最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 12。

- ① 一班の話し合いでは飯田さん以外の班員があまり発言していなかったが、見方を変えると、これは、飯田さんが司会の役割に徹し、飯田さん以外の班員は思考に集中していたことだと考えられる。一方、二班の話し合いでは班員全員がよく発言していたが、見方を変えると、これは、班員それぞれが話し合いとは関係のないおしゃべりをしていたことだと考えられる。
- ② 一班の話し合いは二班に比べるとすぐに合意に達したように見えるが、見方を変えると、一班では提案した飯田さんの意見がそのまま合意されていることから、飯田さんの提案に新たな考えが加えられることはなかったと考えられる。一方、二班の話し合いは一班に比べると収束しなかったように見えるが、見方を変えると、二班では新たな見解が生じてきたことから、さまざまな見方をもとにして合意が形成されていったと考えられる。
- ③ 一班の話し合いでは発表テーマはすぐに決まったが、見方を変えると、資料から読みとったことを発言したのは飯田さんと関口さんであったことから、全員で十分に分析した上で発表テーマが決められたとは言いがたいと考えられる。一方、二班の話し合いでは発表テーマはなかなか決まらなかったが、見方を変えると、資料から読みとったことを班員全員が発言していることから、全員で十分に分析した上で発表テーマが決められたと考えられる。
- ④ 一班での話し合いは飯田さんを中心にしてスムーズに進んだが、見方を変えると、班員のそれぞれの発言が短いことから、飯田さんが班員の意見を最後まで聞かずに自分勝手に進行してしまっていたと考えられる。一方、二班での話し合いは石川さんを中心にしてゆっくりと進んだが、見方を変えると、班員のそれぞれの発言が長いことから、石川さんが話し合いをうまく進行できず、話し合いが停滞してしまっていたと考えられる。
- ⑤ 一班での話し合いでは話し合いの論点は割れなかったが、見方を変えると、これは、話し合いの中で多様な意見が出されなかったことだと考えられる。一方、二班での話し合いでは話し合いの論点が二つに割れてしまったが、見方を変えると、これは、話し合いの中で多様な意見が出されたということだと考えられる。





4

次の文章を読んで、問1～問6に答えよ。

一九五八年(昭和三十三年)、淳子は父親が勧める東京の大学に進学した。福島県の三春町<sup>みはるまち</sup>で生まれ、山登りが好きな淳子は、同じ寮に住む濱野麗香<sup>はまのれいか</sup>をはじめとした洗練された学生たちに馴染むことができず、体調を崩して倒れてしまう。連絡を受けて迎えに来た父とともに、故郷の温泉旅館で養生することになった。

その夜は父と向き合って夕食を摂った。皿には地元との川魚や山菜が彩りよく盛り付けられている。父が淳子の膳に目を向けた。皿にほうろく焼きが手つかずのまま残っている。

「どうした、食べねえのが」

「おなかいっぱい」

「そうが。まあ、無理はせんでええ」

三角形の油揚げの中に長葱<sup>ながねぎ</sup>を入れて焼き、味噌<sup>みそ</sup>を付けて食べるこの郷土料理は、子供の頃から淳子の好物だった。家の食卓に並べられるといつも真っ先に箸を伸ばした。それさえ食べられないという淳子の姿に、父は困惑の表情を浮かべた。

夕食後、温泉に向かった。脱衣所も浴場も杉の香りがする。石造りの湯船はゆったりと大きく、湯は透明で滑らかだ。手桶<sup>おけ</sup>で身体に湯をかけ、淳子は温泉に浸かった。熱さもちょうどいい。「ふう」と、思わず息がもれた。寮では先輩たちに気を遣って、いつも湯船の隅で縮こまっていた。けれどもここでは思い切り手足を伸ばすことができる。

背の高い仕切り壁の向こうで、父もまた湯に浸かっている。どうやら温泉に入っているのは父と淳子だけのようだ。

「湯加減はどうだ」

父の声が壁や天井に反響した。

「うん、ちょうどいい」

「ここは坂上<sup>さかのうえ</sup>田村麻呂<sup>たむらまろ</sup>大將軍が東征した時に発見した湯でな、疲労回復や健康増進にたいそう効くって評判だ。なあに、ここでしばらく養生すればすぐに元気になるぞい」

A 「うん」と、言ったとき、淳子は言葉に詰まった。次の言葉が口を衝いて出るまでしばらく時間がかかった。

「とうさん」

「おう」

「ごめんなさい」

一瞬の間があった。

「どうした、何で謝る」

「とうさんの望むような娘になれなくて」

子供の頃、父が本当は男の子が欲しかったと知った時から、女の子が生まれてよかったと思われたという気持ちはずっと心に残っていた。けれども結局、叶わぬままだった。

「そんなことを思っただのが、馬鹿なこと言っんでねえ」<sup>B</sup>

父の声がくぐもっている。

「同室の濱野さんという友達から、いろいろ話を聞かせてもらっただぞい。おめえが大学でそんなに辛い思いをしているなんて考えてもいなかった。もともとあの学校を決めたのはとうさんだ。無理に押し付けて悪かったな。淳子、謝るのはとうさんの方だ、すまんかった」

まさか父からそんな言葉を聞くとは思ってもしなかった。

「とうさんの頭が古かったんだ。おなごというのは料理や裁縫を身に付けて、いずれはいい相手を見つけで嫁に行く、それが幸せになれるいちばんの方法だと思っ込んで。しかし、戦争が終わって時代は変わったんだ。男も女も関係ない。みんな自由に自分の生きる道を決めていい世の中になったんだ。それを今回のことで改めて気づかされた」

「とうさん」

「無理はしなくていい。今はゆっくり身体を休めて、まずは元気を取り戻すことだ。これからどうするかは、あとで考えろといひ。もう、とうさんに遠慮することはねえがらな。淳子の望むようにすればいいんだ」

胸がいつぱいになった。あの厳格な父がこうまで淳子を慮おもんばかってくれている。何か言おうとしたが、鼻の奥がつんとして言葉が出なかった。黙っていると涙が溢れそうになって、慌ててばしゃばしゃと顔に湯を掛けた。隣の父の湯船からも同じ音が聞こえていた。

翌日には母もやって来た。すっかり痩せ、頬の膨らみもなくなった淳子を見て、母はひどく驚いたようだ。何も言わず、横に寄り添ってひたすら背中を撫なでてくれた。母の手のひらの温かさに、また泣いてしまっそうになった。

温泉宿に淳子ひとり残すのを、母はとても心配があった。しかし淳子は、自分の意思でしばらく留まることを告げた。寮でも大学でもいつも周りに誰かがいて、自分の時間を持つことができなかつた。今はひとりになって、これまでのことを考えてみたかつた。

両親が三春町に帰ってから、淳子は毎日を静かに過ごした。何をするといいわけではない。朝と夕には宿のまわりを散歩して、風に吹かれ、森の匂いを吸い込んだ。部屋に戻れば山を眺め、本を読み、音楽を聴いた。明るい気持ちになる日もあつたが、落ち込む日もあつた。それでも穏やかな日々は着実に淳子を癒していった。半分も食べられなかつた食事の量が増えるようになり、夜もよく眠れるようになった。いつの間にか頬にできていた吹き出物も消えていた。

どうしてこんなことになってしまったのだろう。

淳子はようやく、自分と真正面から向き合えるようになっていた。

田舎者だと思われるのが恥ずかしかつた。だから逆に気が負があつた。みんなに受け入れられないなら自分から背を向ければいい、媚びてまで仲間に入る必要はない。そんな見当違いの頑なさを鑑にして、必要以上に神経を尖らせていた。麗香に対してもそうだ。ひとり勝手に引け目を感じ、劣等感にまみれていた。自分で自分を追い詰めていたのだ。

無理なんてしないでいい。強がりなんて捨ててしまえばいい。私は、私らしく生きればいいんだ。

そう思った瞬間、堰を切つたように、涙が溢れ出た。涙は次から次へと零れ落ちてゆく。まるで胸の中に溜まっていたものが、涙となってみんな吐き出されてゆくようだった。

その日を境に、淳子の心に明確な変化が芽生えた。

もう一度やり直そう、いや、やり直したい。

大学に戻る決心もついた。勉強を途中で放り出さなかつた。ただ寮は出ようと決めた。もう、あの気詰まりな毎日だけに戻りたくない。自分のために過ごせる時間があれば、大学生活もきつとやりこなせるに違いない。それが淳子の出した結論だった。

ひと月後。三春町に帰つた淳子は、自分の気持ちを両親に告げた。身体が回復した様子にふたりとも安心したようだが、寮を出たいという申し出に母は不安があつた。三春町以外で暮らした経験のない母である。「東京で若い娘がひとり暮らして」と、憂慮するのは無理もなかつた。

「やってみろ」と、言ったのは父だ。

「淳子が決めだのなら、とうさんは反対しねえ。今は、自分の選んだ道を信じるのが大切なんだ」

「ありがとう。うん、自分の力で頑張ってみる」

淳子はその時、父から初めてひとりの人間として認められたような気がして嬉しかった。  
夏休みが明ける少し前、退寮手続を済ませて大学近くに部屋を借りた。

四畳半に半畳の台所がたっただけの小さなアパートだが、自分の城が持たせたことにホッとした。商店街に買い物に出掛けたり、銭湯通いをしたり、初めての経験も新鮮だった。もちろんひとり暮らしの心細さはある。真夜中、裏庭で物音がして跳び上がることもあった。それでも以前のように規則で縛られたり、他人の視線を気にしたりすることがなくなった分、心は軽かった。

新学期が始まって、久しぶりに大学の講義室に顔を出す時はさすがに緊張した。きつと休学や退寮についての顛末をいろいろ詮索されるのだろう、と、覚悟していた。しかし意外にも、多くの学友たちから好意的な声を掛けられた。

「身体の具合が悪かったんですって？ もう大丈夫？」

「大変だったね、みんな心配してたのよ」

「よかったね、元気になって」

そんな言葉がもたらえるとは予想もしていなかった。

「おかえり」と、言ったのは麗香である。淳子は少し緊張して答えた。

「あの時は迷惑かけてごめんなさい」

病院に運び込まれた時、麗香の手も借りている。その礼も言わないままだった。

「気にしないで、大したことはしてないんだから。ねえ、そんなことより、私、山に登りたいなああって思ってるんだけど、付き合ってくれないかな」  
いきなり、麗香が意外なことを言った。

「どうしたの、山は嫌いじゃなかった？」

「そうだけど、一度も登ったことがないのに嫌いつていうのも、食わず嫌いでどうかと思ったの。とりあえずは経験してみないと、いいも悪いもわからないじゃない」

「でも、山っていつても、この辺りじゃどこの」

（注1）  
「御岳山なんかどうかな。知り合いから、登り易くていい山だって聞いたことがあるんだ」

「御岳山ってどこにあるの？」

「やだ、東京に決まってるじゃない」

「えっ、東京にも山があるの?」

声を上げると、麗香は苦笑した。

「やあねえ。山ぐらいあるわよ。そりゃあ、あなたの故郷ほどじゃないかもしれないけど、結構人気のある山が多いのよ。ねえ、行きましようよ」  
 そのままで言われたら断れない。淳子自身、東京にあるという山に興味が湧いていた。

その週末の日曜日、淳子はおにぎりと水筒を用意して、待ち合わせの大学正門前に向かった。時間通りに現れた麗香はいつものようにお洒落な姿だ。細身のズボンにチェックのシャツ、紺のセーター、つばの広い帽子がよく似合っている。淳子は綿ズボンに白シャツ、カーディガンを羽織っている。

ふたりで新宿に出て国電(注2)に乗った。揺られること一時間半、降り立ったのは登山口のある御岳山駅である。

駅前の風景を目の当たりにして、淳子は目を見開いた。そこに広がっているのは田圃たんぼと畑が連なった山里だ。

「ここ本当に東京なの?」

「そうよ」

「へえ」

ケーブルカーがある滝本駅たなもとまでの道を歩きながら目を更に見開いた。両脇に農家が点在し、納屋の前には鍬くわや鋤すきが置かれていた。畑では農家の人が見せせと収穫した野菜(注3)を大八車だいはちぐるまに積み込んでいる。ほおかむりしたおばあちゃんのがんびりとリヤカーを引いていた。淳子の故郷、三春町と何ら変わらない風景が、そこにあった。

東京にもこんな田舎があるのだと知ってびっくりした。東京タワーやコンクリートのビル、華やかなショーウィンドウ、溢れんばかりの人が行き来する街、それが東京だと思っていた。けれどもこの田舎もまた東京の一部なのだ。

(唯川恵『淳子のでっぺん』による。)

幻冬舎

(注1) 御岳山——東京都青梅市にある山。標高九二九メートル。

(注2) 国電——旧国鉄における、大都市周辺の近距離電車の呼称。

(注3) 大八車——荷物運搬用の大型の二輪車。江戸前期から主に関東地方で用いられた。

問1 傍線部A 「うん」と、言ったきり、淳子は言葉に詰まった。とあるが、その理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 13。

- ① 淳子は自分では回復できるとは思っておらず、そんな自分を信じて励ましてくれる父への申し訳なさで、言葉が見つからなかったから。
- ② せっかく勇気を出して正直にわびようとしたのに、父の一言で出鼻をくじかれたので、もう一度気持ちを落ち着ける必要があったから。
- ③ 故郷に帰って父の優しい言葉を聞いているうちに東京での嫌な思いがよみがえってきて、抑えていた感情が溢れ出そうになったから。
- ④ 父は淳子の胸のうちを推し量り、体をいたわってくれているのに、その期待に沿えなかった申し訳なさで胸がいっぱいになったから。
- ⑤ 温泉で気持ちが悪く着けば相談しやすいだろうと話を促す父に、何と切り出していいかわからず自分の心中を整理しなくなったから。

問2 傍線部B 馬鹿なこと言うんでねえ に込められた父の気持ちとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

14。

- ① 自分の望むように育ってくれば性別は関係ないのに、そのことにこだわる娘を情けなく思っている。
- ② 古い価値観にとらわれていた自分を悔やみ、淳子は淳子の思うとおりにすればよいと思っている。
- ③ 自分の期待が淳子を追い詰めてしまったことに初めて気づき、自分自身を擁護したくなっている。
- ④ 自分の期待と淳子のやりたいことは食い違っていたと気づき、言葉が見つからず困惑している。
- ⑤ 淳子の気持ちを理解しようと努力してきたが、今さら弱音をはく娘に裏切られたように思っている。



問3 傍線部C そんな見当違いの頑なさ とはどのようなものか。これについて説明したものととして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから

一つ選べ。解答番号は 15。

- ① 自負心の強さから、いつの間にか友人を追い詰めてしまった淳子の態度。
- ② 自分と向き合うために周囲に背を向け、内省するばかりだった淳子の態度。
- ③ 劣等感を抱いていると気づかれないように、周囲に攻撃的だった淳子の態度。
- ④ 自分を馬鹿にしている友達をいつかきつと見返してやろうとする淳子の態度。
- ⑤ 自分が傷つかないために虚勢を張り、周囲には迎合しまいとした淳子の態度。

問4 傍線部D その目を境に、淳子の心に明確な変化が芽生えた。とあるが、この変化について説明したものととして最も適当なものを、次の①

～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 16。

- ① 無理や強がりを捨て、前向きに自分らしく生きてみようという気持ちになった。
- ② 寮から出て一人で暮らし、父から認められたいという気持ちになった。
- ③ 守ってくれた父のもとから離れて、独り立ちしようという気持ちになった。
- ④ これからは自分のやりたいことだけをすればよいという気持ちになった。
- ⑤ 懸命に勉強して、自分を追い詰めた友人たちを見返そうという気持ちになった。



問5 傍線部E 新学期が始まって、久しぶりに大学の講義室に顔を出す時はさすがに緊張した。とあるが、その理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 17。

- ① 新しい生き方を始めた自分のことを友人たちにわかってもらえるか自信が持てなかったから。
- ② 早く大学の友人たちになじんで、心配する母親を安心させたいと気負っていたから。
- ③ 休学している間に授業はずいぶん先まで進んでおり、ついていけるかどうか不安だったから。
- ④ 大学の講義室は以前自分を苦しめた場所であり、今も変わらずそうであるように思えたから。
- ⑤ 淳子の休学や退寮のいきさつを、友人たちにあれこれと尋ねられるだろうと思ったから。

問6 この文章を説明したものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 18。

- ① 田舎と都会という対照的な場所を設定し、それぞれの場所における会話を通して、両方に身を置きながらどちらにも安住できない主人公の不安な心情を描いている。
- ② 都会の近郊と故郷の双方で同じように主人公に訴えかけてくる自然の様子を、色彩感に富む筆致で詳細に描きこみ、揺れ動く主人公の心理を象徴的な方法で表現している。
- ③ 父親との会話を通してそれまでの主人公に起きた出来事や現在の様子が示された後、主人公が自分の人生を再生しようとする姿が主人公の心理に寄り添うように書かれている。
- ④ 故郷の言葉で語りかける父に対し、一貫して東京の言葉で答える主人公の姿を通して、精神的に独り立ちをして少しずつ都会の生活に馴染もうと努力している様子が描き出されている。
- ⑤ 新しい人生を始めようとする主人公の心理の描写を中心に物語を進めつつ、父親や友人との間に起こった出来事を主人公が回想する場面を挿入して、作品に時間的な奥行きを持たせる書き方をしている。

5

次の文章は、いずれも江戸時代に儒学や本草学(中国に由来する薬物についての学問)を学んだ貝原益軒が著した『養生訓』の一節である。これを読んで、問1～問4に答えよ。

○ 人身、病なき事あたはず。病あれば、医をまねきて治を求む。医に上中下の三品あり。上医は病を知り、脈を知り、薬を知る。此の三知を以て病

を治して十全の功あり。まことに世の宝にして、其の功、良相につげる事、古人の言のごとし。下医は、三知の力なし。妄りに薬を投じて、人をあ

やまる事多し。夫れ薬は、補瀉寒熱の良毒の気偏なり。其の気の偏を用ひて病をせむる故に、参芪の上薬をも妄りに用ふべからず。其の病に應ずれば

良薬とす。必ず其のしるしあり。其の病に應ぜざれば毒薬とす。ただ益なきのみならず、また人に害あり。又、中医あり。病と脈と薬を知る事、上

医に及ばずといへども、薬は皆気の偏にして、妄りに用ふべからざる事を知る。故に其の病に應ぜざる薬を与へず。前漢書に班固が曰はく、病有り

て治せざれば常に中医を得よと。云ふ意は、病あれども、もし其の病を明らかにわきまへず、其の脈を詳らかに察せず、其の薬方を精しく定めが

たければ、慎んで妄りに薬を施さず。ここを以て病あれども治せざるは、中品の医なり。下医の妄りに薬を用ひて人をあやまるにまされり。故に病

ある時、もし良医なくば、庸医の薬を服して身をそこなふべからず。只保養をよく慎み、薬を用ひずして、病のおのづから癒ゆるを待つべし。此く

のごとくすれば、薬毒にあたらずして、はやく癒ゆる病多し。

○ 良医の薬を用ふるは臨機応変として、病人の寒熱虚実の機に臨み、其の時の変に應じて宜に従ふ。必ず一法に拘はらず。たとへば、善く戦ふ良将

の、敵に臨んで変に應ずるがごとし。かねてより、其の法を定めがたし。時に臨んで宜に従ふべし。されども、古法をひろく知りて、その力を以て

今の時宜に従ひて、変に應ずべし。古を知らずして、只今の時宜に従はんとせば、本なくして、時宜に應ずべからず。故きを温ねて新しきを知る

は、良医なり。

(注1) 補瀉寒熱の良毒の気偏なり——病気の時に良気を補ったり毒気を取り除いたりしてバランスをとるものである、の意味。

(注2) 参芪——薬用人参。

(注3) 前漢書——中国の歴史書。班固による撰著。

(注4) 虚実——漢方医学の用語で、不足と過分の意。体の機能や症状が衰弱していることと、異常にたかぶっていること。

問1 傍線部A 病有りて治せざれば常に中医を得よ とあるが、それはなぜだというのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のう

ちから一つ選べ。解答番号は 19。

- ① 中医は、病気が治らないと分かって最後まで治療に専念するので、効果がなくても投薬をやめないから。
- ② 中医は、病気の原因を探り出し脈を的確に診断することができるので、めったに投薬することがないから。
- ③ 中医は、病気の処方正しく見極められない時には治療をしないので、むやみに投薬することがないから。
- ④ 中医は、病気の症状や脈を正確に診断しないまま治療をするので、効果的に投薬することができないから。
- ⑤ 中医は、病気が治らないと知るとすぐに治療をやめてしまうので、不必要な投薬を続けることがないから。

問2 傍線部B たとへば、善く戦ふ良将の、敵に臨んで変に應ずるがごとし。 とあるが、「良医」と「良将」とはどういう点が同じだというのか。そ

の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 20。

- ① 古い方法をよく知らなくても相手の状況を察知し、無意識に伝統的な方法で問題を解決している点。
- ② 古い方法にこだわることなく相手の状況を見極め、相手の求めに応じて柔軟に手段を変えている点。
- ③ 古い方法を最優先したうえで相手の状況を理解し、その場の思いつきで手段を変更したりしない点。
- ④ 古い方法によく通じたうえで相手の状況を見定め、相手の意表を突いた奇抜な方法も考えられる点。
- ⑤ 古い方法をよく知ったうえで相手の状況を観察し、その変化に対応して適切な手段を講じられる点。

問3 『養生訓』の中で筆者が述べていることを踏まえた意見として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 21。

- ① 「人身、病なき事あたはず」(波線部 a)とあるように、人間は常に健康に注意して生活していれば、病気になるまいで過ごせるはずだ。
- ② 「其の功、良相につげる事」(波線部 b)とあるように、名医の働きは人民の生命を守ることであり、よい政治家のように大事なものだ。
- ③ 「其の病に応ずれば良薬とす」(波線部 c)とあるように、薬の効き目は人によって異なるので、多くの薬を用いた方が良薬に巡り合える。
- ④ 「病のおのづから癒ゆるを待つべし」(波線部 d)とあるように、病気は自然に治癒するものなので、医者腕前はあまり影響しない。
- ⑤ 「故きを温ねて新しきを知る」(波線部 e)とあるように、名医とは昔からのやり方を捨て、最新の方法を駆使して診察できる医者のことだ。

問4 杉田さんのクラスでは、『養生訓』の文章と次の【資料1】・【資料2】を合わせて学習した。これらを読んで、(1)～(3)に答えよ。

【資料1】

(注5) 韓のくすしを見るに、人ごと妙たなるといふにはあらず。拙ちきも多し。されど、脈をしり、くすりを用ふる事、この国のくすしにはちがひ、くはしきやうにおほゆ。やまひにより、くすりひといろにて験しるをうる事あり。これをこの国のくすしは、単方なりといひてわらへど、許胤宗(注7)が言葉を見れば、さにはあるまじ。<sup>C</sup>

(注8) 自註。許胤宗曰、「古之上医、病与薬値、唯用一物攻之。今人以情度病、多其物、以幸有功。譬獵不知兔、広絡原野、冀一人之獲術亦疎矣。」

(雨森芳洲『たはれ草』による。)

- (注5) 韓のくすし——中国の医者。
- (注6) この国——日本のこと。
- (注7) 許胤宗——中国、唐の時代の医者。
- (注8) 自註——自分で加えた注釈。

【資料2】

〔次の文章は、古代中国の医者である華佗について述べたものである。〕

精<sup>くはシク</sup>於<sup>ニ</sup>方<sup>ニ</sup>藥<sup>ニ</sup>、処<sup>ハ</sup>齊<sup>ハ</sup>不<sup>レ</sup>過<sup>ニ</sup>数<sup>ニ</sup>種<sup>ニ</sup>、心<sup>ニ</sup>識<sup>ニ</sup>分<sup>ニ</sup>銖<sup>ニ</sup>、不<sup>レ</sup>仮<sup>ニ</sup>称<sup>ニ</sup>量<sup>ニ</sup>。針<sup>ニ</sup>灸<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>過<sup>ニ</sup>数<sup>ニ</sup>処<sup>ニ</sup>。若<sup>モシ</sup>疾<sup>ヤマヒ</sup>發<sup>シテ</sup>結<sup>ビ</sup>於<sup>ニ</sup>内<sup>ニ</sup>、針<sup>ニ</sup>藥<sup>ニ</sup>所<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>能<sup>レ</sup>及<sup>ブ</sup>者<sup>ハ</sup>、乃<sup>スナハチ</sup>令<sup>シメ</sup>先<sup>マツ</sup>以<sup>テ</sup>酒<sup>ヲ</sup>服<sup>セ</sup>麻<sup>ニ</sup>沸<sup>ニ</sup>散<sup>ヲ</sup>、既<sup>ニ</sup>醉<sup>ニ</sup>無<sup>クシテ</sup>所<sup>ニ</sup>覺<sup>スル</sup>、因<sup>ヨリテ</sup>剝<sup>コ</sup>破<sup>ハシ</sup>腹<sup>ヲ</sup>、抽<sup>コ</sup>割<sup>ス</sup>積<sup>セキ</sup>聚<sup>シウヨ</sup>。

（『後漢書』による。）

（注9） 処齊——調合。

（注10） 分銖——分量。

（注11） 不仮称量——はかりを使わなかった。

（注12） 麻沸散——麻醉薬の名。

（注13） 剝破——切開し。

（注14） 抽割積聚——病気の根本を切除する。

(1) 傍線部C さにはあるまじ とあるが、その内容の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 22。

- ① 日本の医者は、中国の医者が薬剤を調合せずに薬一種を処方するのを批判するべきではないということ。
- ② 中国の医者は、日本の医者が調合にこだわらず薬一種を処方するのを非難するべきではないということ。
- ③ 日本の医者は、中国の医者が脈を診断することを優先して薬を用いないのを学ぶべきではないということ。
- ④ 中国の医者は、日本の医者が薬の処方に関心がなく先人の知恵に頼るのを見下すべきではないということ。
- ⑤ 日本の医者は、中国の医者が自分たちよりも薬の処方に優れていると思っで見習うべきではないということ。

(2) 傍線部D 譬飢不知兔、広絡原野、冀一人之獲。とは、どういうことをたとえたものか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 23。

- ① 病気の症状を知らないのに薬一種だけを処方して、多くの薬を調合するのと同じ効果を期待する治療法。
- ② 病気の症状を知らないまま多くの薬を処方して、その一つがたまたま効用を表すのを期待する治療法。
- ③ 薬の知識がないまま多くの患者を診察して、誰かに処方した薬の効き目が表れるのを期待する治療法。
- ④ 薬の知識だけで患者を診察して、たまたま生じた薬の効用によって名声を獲得しようとする医者への態度。
- ⑤ 薬の知識がないのに手当たり次第に患者を診察して回って、手柄を一人占めしようとする医者への態度。



(3) 杉田さんは、『養生訓』と【資料1】・【資料2】を学習した後に、学習したことを次のようにまとめた。【杉田さんのまとめ】の空欄 I

II に入るものの組合せとして最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 24。

【杉田さんのまとめ】

○ 【資料1】では、中国の医者と日本の医者を比べて、	I	と述べている。
○ 【資料2】は、古代中国の医者華佗の逸話であるが、	II	と思う。

① I 中国の医者は技量の優れた者が多いが、日本の医者よりも薬の調合という点では劣っていることがよくある  
 II 何種類かの薬を処方して効用を見極め、薬や鍼灸での治療に限界を感じると麻酔薬さえも服用させて切開手術を行った華佗は、『養生訓』で述べている一種類の薬で病気を治す名医ではなく、多くの薬を用いながら効用が表れるのを期待した医者である

② I 中国の医者は技量の劣っている者が多く、日本の医者の方が脈の診断や投薬の知識に精通していることがよくある  
 II 数種類の薬だけを用いる治療を心がけるが、薬や鍼灸では対応できない緊急時には酒を麻酔薬代わりにして切開手術を行った華佗は、『養生訓』でも述べている薬の使用を極力避けながら、迅速に処置を施すことができる優れた医者である

③ I 中国の医者は技量の優れた者が多いわけではないが、日本の医者よりも脈の診断や投薬の処方については的確である  
 II 症状に応じて数種類の薬を調合して処方し、薬や鍼灸での治療が不可能な時は切開手術による根本治療を行った華佗は、『養生訓』で述べている一種類の薬での治療とは異なるが、病気を臨機応変に処置できるという点では優れた医者である

④ I 中国の医者は必ずしも優れた者ばかりではないが、日本の医者よりも脈の診断や投薬の処方については精通している  
 II 多くの薬を処方することなく治療に当たり、薬や鍼灸で治療が見込めない時に麻酔薬も使用して適切に切開手術を行った華佗は、『養生訓』でも述べている薬をむやみに乱用せず、症状に応じて臨機応変に対処することができる優れた医者である



⑤

I

中国の医者は技量の違いが人によって甚だしく、日本の医者の方が複雑な薬の調合という点では長けていることが多い

II

薬を使わないという古来からの治療法を用いず、麻酔薬を使った切開手術という最新の医療技術を駆使して治療を行った華佗は、『養生訓』で述べている新旧の幅広い知識を持ち合わせた名医ではなく、新奇な治療法で名声を得た医者である

